

【敦賀市】

1人1台1端末の利活用に係る計画

1. 1人1台1端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

敦賀市では、令和3年4月に「第2期敦賀市教育大綱」を策定し、基本施策として「児童・生徒数や社会の変化に対応した学校の整備」を掲げ、社会で生きていくために必要な資質・能力を育むために、日常的にICTを活用できる環境の整備を進めています。

また、令和の敦賀市学校教育ビジョンでは、1人1台1端末を個別最適な学びと協働的な学びを行う基盤として位置づけており、様々な学習の場面で活用を進めていきます。

この目標の実現に向けて、ICTを活用した新たな教材やアプリ、学習活動を積極的に導入し、児童生徒の資質・能力の育成を推進していきます。

2. GIGA 第1期の総括

1. 経緯と現状

敦賀市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度に小・中学校の児童生徒に1人1台1端末を整備しました。この5年間で学習用端末を接続するためのICT環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。

2. ICT 施策の実施内容

・ネットワーク環境の強化：令和2年度に全ての普通教室と特別教室の一部に無線アクセスポイントを整備しました。また、令和4～6年度にかけて、体育館や会議室などの追加の無線アクセスポイントの整備を行い、1人1台1端末を利用できる環境を拡充してきました。

・教育支援設備の導入：令和4年度の大型提示装置の更新や、ICT支援員を配置することにより、授業の質の向上に努めてきました。

・学習活動の充実：整備したICT環境を活用することで、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ICT端末を用いた発表など、さまざまな学習活動を行えるようになりました。

3. 課題

令和6年度に行われた福井県学校教育DX進捗状況調査では、「教科指導、校務におけるICT活用状況」において敦賀市は県平均を上回っていました。また、福井県が行う学力調査（SASA）の質問調査においても、敦賀市の子どもたちの9割以上が「ICT活用は、勉強の役に立つ」と肯定的に回答しており、子どもたち自身も有用性を感じており、タブレット活用は推進されつつあると考えています。

今後さらに端末活用を進めるにあたっての課題は次のとおりです。

- ・ ICT 活用頻度に教職員間で差がある。
- ・ 端末更新による小中学校間の端末・OS を統一により OS が変更となる小学校教職員の研修機会の充実
- ・ 個別最適な学び・協働的な学びのより一層の充実
- ・ 不登校や特別支援、日本語指導など様々な困難を抱える児童生徒に対する支援の更なる充実

3. 1人1台端末の利活用方策

敦賀市では、GIGA スクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。

また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していきます。

(1) 1人1台端末を積極的に活用するために

端末更新により小中学校で使用する端末を統一することから、新たな端末の利用に向けての教職員研修を充実します。特に OS が変更となる小学校へ早期に実機を用いた研修を実施します。

また、全小中学校において ICT 活用を推進するため、校内外での計画的な研修の実施や効果的な実践の共有を図り、子どもたちの豊かな学びの実現につなげていきます。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実を図るために

これまで行ってきた学習支援ソフトを活用した授業やデジタルドリルの活用に加え、端末更新により端末やアプリケーションの利用状況をわかりやすく可視化することから、学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した個別最適な学びを充実させます。また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図ります。

(3) 全ての児童生徒の学びの保障するために

現在、各学校において、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、不登校や積雪等何らかの事情により登校できない児童生徒に対して授業配信などを行っています。GIGA 第2期においても、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用していきます。